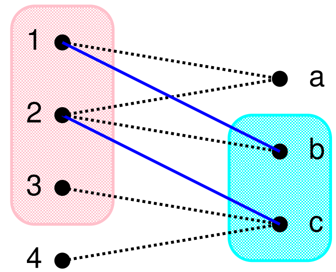
グラフとネットワーク (第 14 回)

安藤 和敏

ando@sys.eng.shizuoka.ac.jp

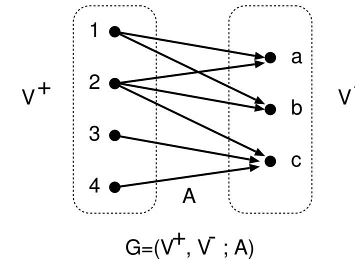
静岡大学工学部

2.4 マッチングと被覆

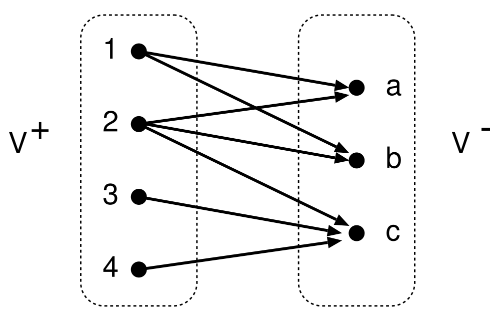


2 部グラフ (⇒ テキスト p. 11)

グラフ $G = (V, A)$ の点集合 V が V^+ と V^- に分
れて， 各枝 $a \in A$ が V^+ の点から出て V^- の点
るとき， G を 2 部グラフと呼んで，
$G = (V^+, V^-; A)$ と表す．



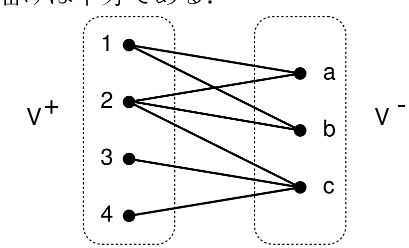
2 部グラフ $G = (V^+, V^-; A)$ の例



の例では, $V^+ = \{1, 2, 3, 4\}$, $V^- = \{a, b, c\}$,
$= \{(1, a), (1, b), (2, a), (2, b), (2, c), (3, c), (4, c)\}$.

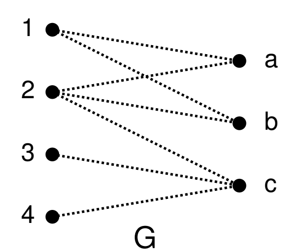
2 部グラフの描き方の約束

枝は V^+ から V^- への向きを持つので，無向グラフとして描けば十分である．



2 部グラフと $\{0, 1\}$-行列

2 部グラフは自然は方法で, $\{0, 1\}$-行列と対応す



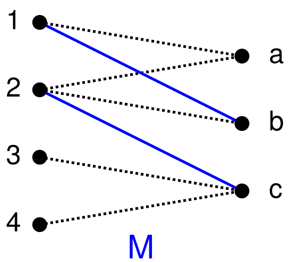
⇔

$$M_G = \begin{array}{c} \\ 1 \\ 2 \\ 3 \\ 4 \end{array} \begin{array}{c} \begin{array}{ccc} a & b & c \end{array} \\ \left[\begin{array}{ccc} 1 & 1 & 0 \\ 1 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 1 \end{array}\right] \end{array}$$

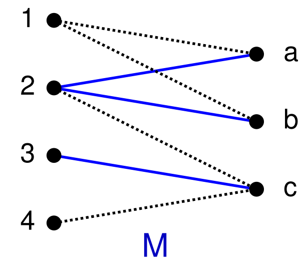
$$M_G(i, x) = \begin{cases} 1 & \text{if } (i, x) \in A, \\ 0 & \text{otherwise} \end{cases}$$

マッチング

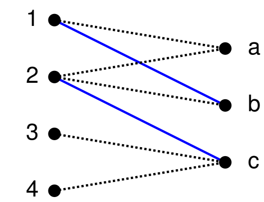
$\subseteq A$ は, 次の (*) を満たすとき, G のマッチン
と呼ばれる.
任意の相異なる 2 つの枝 $a_1, a_2 \in M$ に対して,
$a_1 \neq \partial^+ a_2$ かつ $\partial^- a_1 \neq \partial^- a_2$.



M は G のマッチングではない



マッチングと $\{0,1\}$-行列



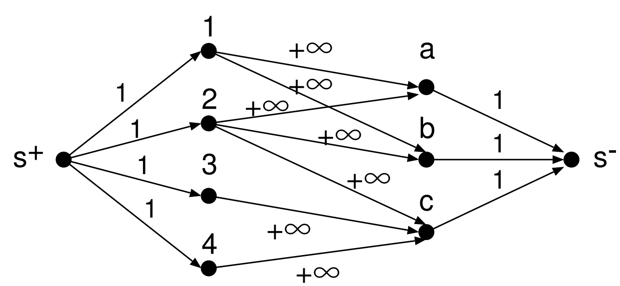
$$\Leftrightarrow \quad \begin{array}{c} \\ 1 \\ 2 \\ 3 \\ 4 \end{array} \begin{array}{c} \begin{array}{ccc} a & b & c \end{array} \\ \left[\begin{array}{ccc} 1 & 1 & 0 \\ 1 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 1 \end{array}\right] \end{array}$$

最大マッチング問題

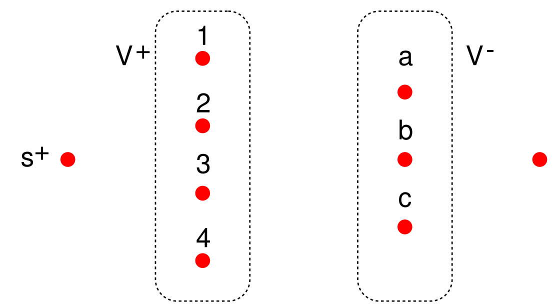
の本数 $|M|$ が最大の G のマッチングを最大マッチ
グと呼び, 最大マッチングを求める問題を最大マッ
ング問題と呼ぶ.

最大マッチング問題の解き方

ネットワーク $\mathcal{N}_G = (\hat{G} = (\hat{V}, \hat{A}), s^+, s^-, c)$ 上の最大フロー問題に変換する.

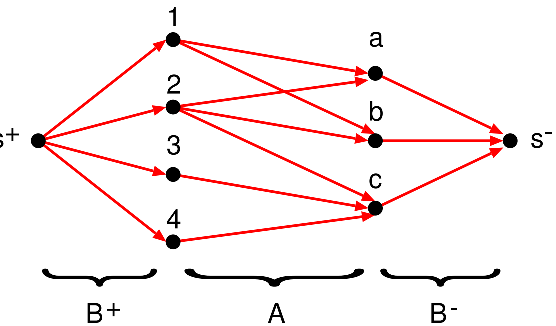


$\mathcal{N}_G = (\hat{G} = (\hat{V}, \hat{A}), s^+, s^-, c)$ の作り



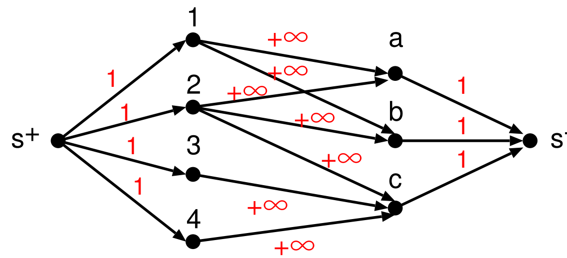
$$\hat{V} = V^+ \cup V^- \cup \{s^+, s^-\} \qquad (2.1$$

$\mathcal{N}_G = (\hat{G} = (\hat{V}, \hat{A}), s^+, s^-, c)$ の作り方



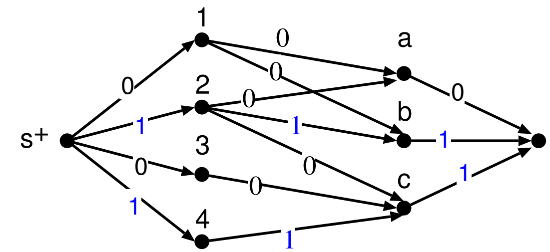
$$\hat{A} = A \cup B^+ \cup B^- \tag{2.140}$$

$\mathcal{N}_G = (\hat{G} = (\hat{V}, \hat{A}), s^+, s^-, c)$ の作り方



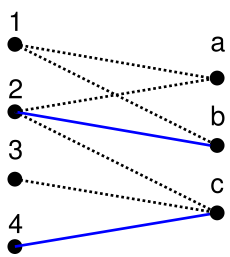
$$c(a) = \begin{cases} 1 & \text{if } a \in B^+ \cup B^-, \\ +\infty & \text{if } a \in A \end{cases} \tag{2.143}$$

$\mathcal{N}_G$ 中の整数値フロー $\varphi \Rightarrow G$ のマッチン



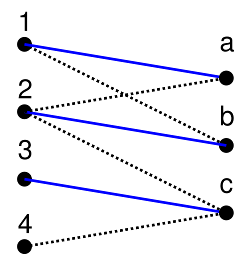
整数値フロー φ ($v^*(\varphi) = 2$)

G のマッチング $M \Rightarrow \mathcal{N}_G$ 中の整数値フロー φ

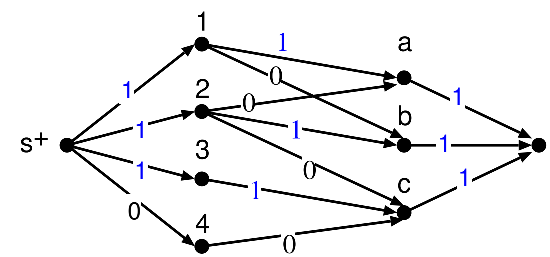


$$M = \{a \mid a \in A, \varphi(a) = 1\} \tag{2.144}$$

, G のマッチング ($|M| = 2$).



G のマッチング M ($|M| = 3$)



$\varphi(a) = 1 \ (a \in M), \quad \varphi(a) = 0 \ (a \in A \setminus M)$ (2.1

で定義される φ は, $\mathcal{N}_G$ の整数値フロー ($v^*(\varphi) =$

のマッチング ⇔ $\mathcal{N}_G$ 中の整数値フロー

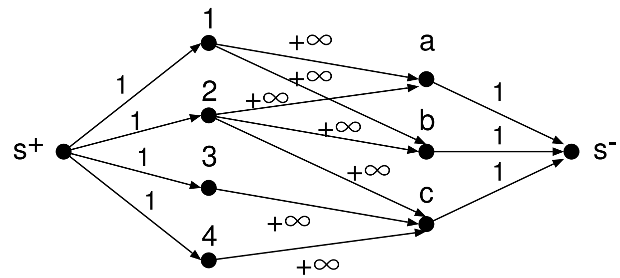
- G のマッチングと $\mathcal{N}_G$ 中の整数値フローとは 1 対 1 に対応する．
- G のマッチング M と $\mathcal{N}_G$ 中の整数値フロー φ が対応しているとき，

$$|M| = v^*(\varphi)$$

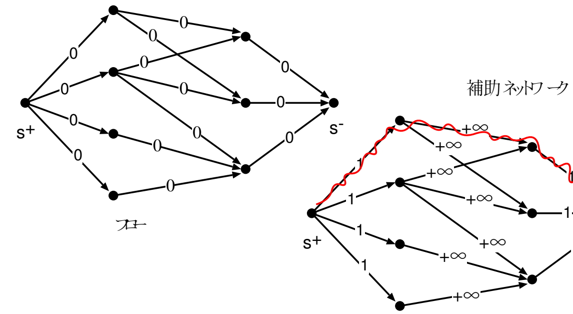
が成り立つ．

- したがって，枝の本数 $|M|$ が最大のマッチングを求めるためには，$\mathcal{N}_G$ 中の最大整数値フローを見付ければよい．

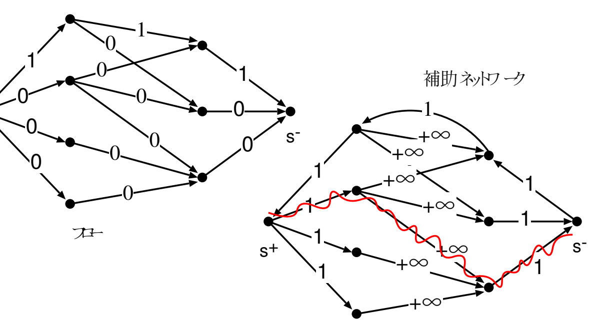
$\mathcal{N}_G$ 中の整数値最大フローを求める



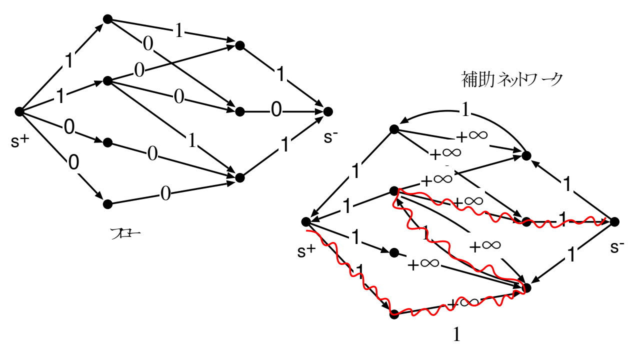
最大フローを求める (1)



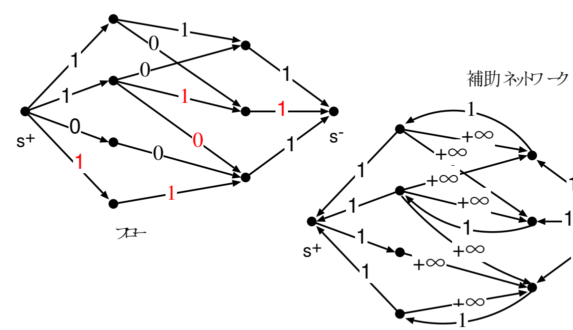
最大フローを求める (2)



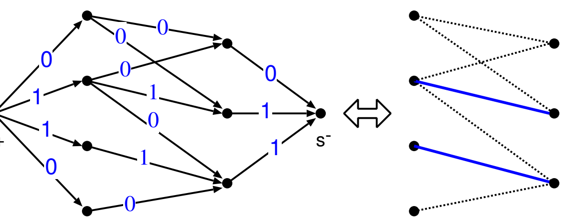
最大フローを求める (3)



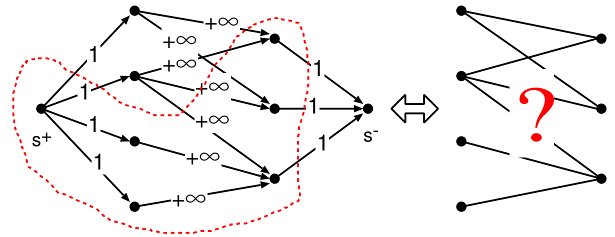
最大フローを求める (4)



最大-最小定理



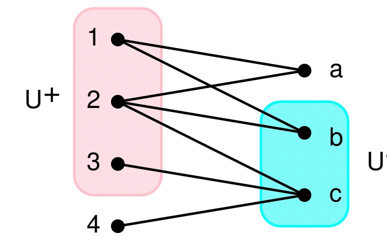
$\mathcal{N}_G$ 中フローと G のマッチングが対応しているのは
かったけれど,



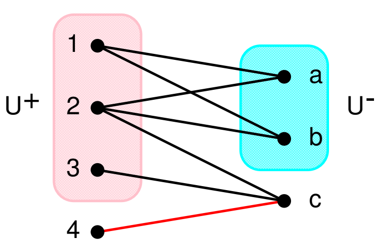
$\mathcal{N}_G$ のカットは G の何に対応するのか?

被覆

2 つの点集合 $U^+ \subseteq V^+$, $U^- \subseteq V^-$ の対 (U^+, U^-)
次の (**) を満たすとき, G の被覆と呼ばれる.
(**) 任意の枝 $a \in A$ に対して, $\partial^+ a \in U^+$ または
$\partial^- a \in U^-$.

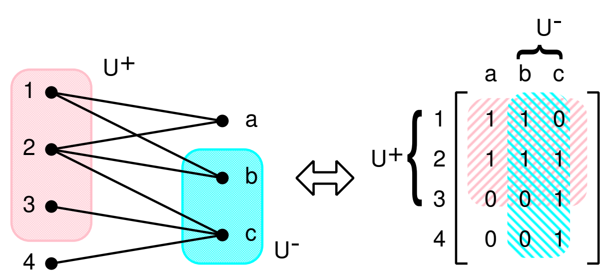


次の (U^+, U^-) は, G の被覆ではない

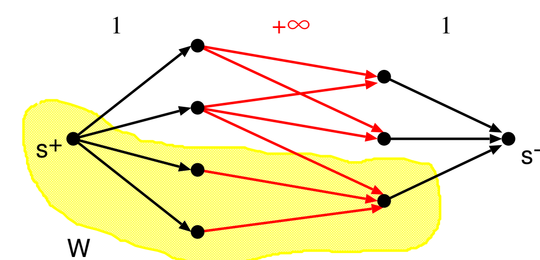


枝 $(4, c)$ に注目.)

被覆と $\{0, 1\}$-行列

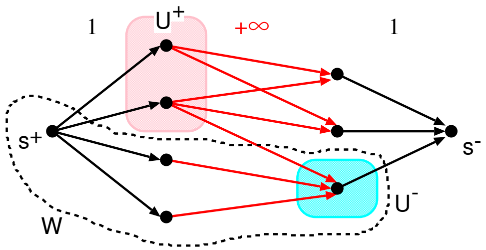


$\mathcal{N}_G$ の容量が有限のカット $\Rightarrow$ G の被



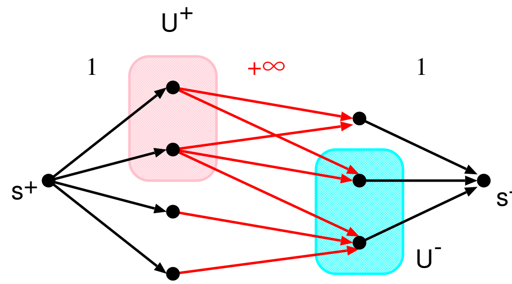
容量が有限のカット W $(\kappa_c(W) = 3)$

G の被覆 $\Rightarrow \mathcal{N}_G$ の容量が有限のカット

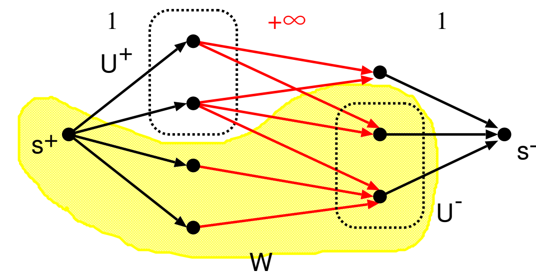


$$U^+ = V^+ \setminus W, \quad U^- = V^- \cap W \qquad (2.146)$$

(U^+, U^-) は, G の被覆 ($|U^+| + |U^-| = 3$).



G の被覆 (U^+, U^-) ($|U^+| + |U^-| = 4$)



$$W = \{s^+\} \cup (V^+ \setminus U^+) \cup U^- \qquad (2.1$$

W は $\mathcal{N}_G$ の容量が有限カット $\kappa_c(W) = 4$.

G の被覆 $\Leftrightarrow \mathcal{N}_G$ の有限容量のカット

G の被覆と $\mathcal{N}_G$ の有限な容量を持つカットとは 1 対 1 に対応する.

G の被覆 (U^+, U^-) と $\mathcal{N}_G$ のカット W が対応しているとき,

$$|U^+| + |U^-| = \kappa_c(W)$$

が成り立つ.

$$\begin{aligned}
&\max\{|M| \mid M \text{ は } G \text{ のマッチング}\} \\
&= \max\{v^*(\varphi) \mid \varphi \text{ は } \mathcal{N}_G \text{ のフロー}\} \\
&= \min\{\kappa_c(W) \mid W \text{ は } \mathcal{N}_G \text{ のカット}\} \\
&= \min\{|U^+| + |U^-| \mid (U^+, U^-) \text{ は } G \text{ の被覆}\}.
\end{aligned}$$

(2.148)

最大マッチング・最小被覆定理

任意の 2 部グラフ G において,

$$\begin{aligned}
&\max\{|M| \mid M \text{ は } G \text{ のマッチング}\} \\
&= \min\{|U^+| + |U^-| \mid (U^+, U^-) \text{ は } G \text{ の被覆}\}
\end{aligned}$$

(2.147)

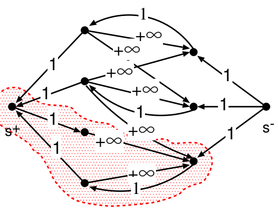
右辺の最小値を与える被覆を最小被覆と呼ぶ.

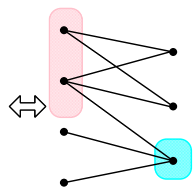
最小被覆の求め方

ットワーク $\mathcal{N}_G$ の最小カット W を求めて，

$$U^+ = V^+ \setminus W, \quad U^- = V^- \cap W \tag{2.146}$$

よって (U^+, U^-) を決めればよい．

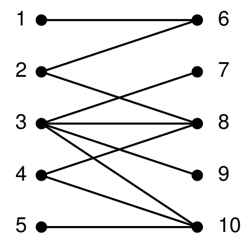




最小カット　W = {s+, 3, 4, c}　　最小被覆 (U+, U-) = ({1, 2}, {c})

宿題

以下の 2 部グラフ $G = (V^+, V^-; A)$ の最大マッチングと全ての最小被覆を求めよ．



解答は `http://coconut.sys.eng.shizuoka.ac.jp/gn/06/` で．